

省エネで活躍するこたつの事故に注意してください

コードから発火

事例

電気こたつの中間スイッチ付近から出火する火災が発生し、周辺が焼けた。(2009年2月 大阪府)

原因

電源コードを引っ張ったり折り曲げたりしていたため、中間スイッチの根元部が半断線状態となり、コードがショートして発火したものです。

こたつの中の可燃物が発火

事例

使用中の電気こたつから発煙し、こたつ布団が焦げた。(2010年2月 神奈川県)

原因

こたつの中に押し込んでいたこたつ布団がヒーターユニットに触れ、焦げて発煙したものです。



座いすとともに押し込められたこたつ布団から出火(NITEの再現実験)。

温風ダクトの事故

温風ダクト(温風暖房機から温風を他の場所に送り込むために使用する製品)を使用することにより、ダクトの排風口からの熱風がこたつの脚部等に当たり、溶融・変形する等の事故が発生しています。やけどや火災等の重篤な被害に至る場合もありますので、取り扱いには十分注意してください。



電源コードを折り曲げたり、ねじったりしないでください。また、こたつの脚や重い物で踏み付けないでください。

電気こたつの中で衣類を乾かさしないでください。座いすや座布団、上掛けなどが、ヒーターユニットに近づき過ぎないようにしてください。

改造や修理を自分で行わないでください。

電気カーペットの操作部から異臭

事例

電気カーペットが温かくならず、操作部(コントローラー)から焦げたようなにおいがした。(2008年12月 栃木県)

原因

大きなしわが生じていたため、ヒーター線が重なりあった際の発熱で過熱状態となり、ショートしてヒューズが溶断し、焦げたようなにおいがしたものです。



折り畳んでいた部分から出火(NITEの再現実験)。



カーペットは、しわのない状態で使用してください。保管の際は、折り跡がつかないようにしてください。また、重い物を乗せたり、強く曲げたりして発熱体を傷めないでください。電源コードを折り曲げたり、ねじったりしないでください。犬や猫などのペットがコードや発熱体をかじらないよう注意してください。

ゆたんぽは、正しく安全に使用してください

就寝中に低温やけど

事例

ゆたんぽで低温やけどを負った。(2009年12月 広島県)

原因

足首がゆたんぽに長時間触れたまま寝ていたため、低温やけどを負ったものです。



過熱で破裂、やけど

事例

電子レンジで加熱中のゆたんぽが、膨らんできたので慌てて扉を開けた際、ゆたんぽが破裂して内容物が飛び散って顔面にやけどを負った。(2009年3月 熊本県)

原因

禁止されているオート加熱機能を誤って使用したため過熱状態になり、内圧が高まって破損したものです。



ゆたんぽは、就寝前に布団の中に入れて、温まったら出してください。長時間、体に触れていると低温やけどを負うおそれがあります。

電子レンジ加熱式は、規定の出力や加熱時間を守ってください。金属製を温めるときは、必ず口金を外してください。ゴム製は湯の温度が耐熱温度以下であることを確認してください。

このマークは、取り扱いを誤った場合、重篤な被害を負うことが予想されますので注意をお願いします。

